



投票は義務ではなく、 政治（まちづくり）への参加の権利です

立川市では、2023年9月に市長選、10月に都議補選と選挙が続きました。市長選は、少し投票率が上がったものの、都議補選は、2年前の都議選から10ポイントも下がってしまいました。**10人のうち、2~3人しか行かなかった**こととなります。報道される国政は遠いところで行われ、政治と金の問題があると嫌気がさしてしまうのは理解できます。しかし、本来、政治（まちづくり）は生活とつながっていて、**政治は生活を良くするための道具**だと考えます。

歴史の中で、獲得してきた政治への参加の権利を放棄すること・無関心でいることは、市民生活をないがしろにする政治（まちづくり）が行われることにつながります。毎日の生活を過ごすことで忙しいかもしれませんが、その生活が政治（まちづくり）につながっています。**選挙の期間だけでも投票で政治への参加の権利を使ってほしいと思います。**

選挙のしくみについて、質問・意見がありましたら、立川ネットまでご連絡ください。

市長選挙			都議選挙（2023年は補欠選挙）		
選挙年	投票率	有権者数	選挙年	投票率	有権者数
2019年	34.74%	151,096人	2021年	37.24%	152,529人
2023年	37.15%	152,938人	2023年	27.39%	154,306人

2024年 立川市単独下水処理場は、東京都の下水処理施設へ変更

北多摩二号水再生センター（国立市） 視察

市内の下水処理は4か所（立川市単独処理場、多摩川上流処理区、北多摩一号処理区及び北多摩二号水再生センター）で行われています。1967年より稼働している立川市単独処理場は老朽化のため、北多摩二号水再生センターに編入されます。配管工事は終わり、今年の3月より送水されます。

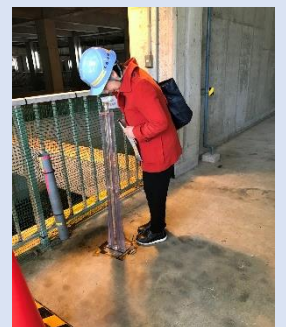
処理する過程で空気を入れたり攪拌したりと電気のエネルギーが使われています。この処理場は狭いため自家発電やソーラーパネルなどの装置はありません。大きな施設では自家発電し余剰電力もあるということでした。安全な処理水を多摩川に放流してきたことで鮎がすめるようになり、周辺に臭わないように処理をする努力で、迷惑施設にならないよう対策をしている様子も確認できました。

【カンパのお願い】生活者ネットワークは、政治（まちづくり）に参加する仕組みとしてカンパとボランティアを呼びかけています。生活者ネットワークの活動にご賛同いただけましたら、カンパのご協力をお願いいたします。

振込先 ゆうちょ銀行 立川・生活者ネットワーク 00140-9-673640



▲11月22日、生活者ネットワーク都議会議員岩永やす代さんとセンター内で下水処理の仕組みの説明を受ける。



▲処理された水を長い管に入れ、透明度を測っている。